

2024年3月期第2四半期（中間期） 決算ハイライト

2023年11月10日

未来を、ひろげる。

2023年度中間決算の概要

[HD連結](#)

- ◆ 親会社株主に帰属する中間純利益は、前年同期比66億円増益の166億円（年初公表比+36億円）
- ◆ 通期の業績予想に対する中間期の進捗率は60%となり、「中期計画2020」最終年度の利益目標達成に向け順調に進捗

連結業績サマリー

	2023年度 中間期	前年 同期比	(増減率)	年初 公表比
連結粗利益	490	5	(1.0%)	
(除く国債等債券関係損益)	① 503	△ 2	【内訳】 ・資金利益+5 ・非資金利益(※1)△6 うち銀行△9	
資金利益	352	5		
役務取引等利益	117	18		
特定取引・その他業務利益	20	△ 18		
(うち国債等債券関係損益)	△ 12	7		
営業経費 (△)	285	△ 7		
与信費用 (△)	② 43	38		
株式等関係損益	③ 74	115		
持分法による投資損益	△ 0	△ 0	(前年) 株式等償却(△)50	
その他	3	2		
経常利益	239	92	(62.1%)	49
特別損益	△ 0	1		
法人税等合計 (△)	72	28		
非支配株主に帰属する 中間純利益 (△)	0	0		
親会社株主に帰属する 中間純利益	④ 166	66	(65.0%)	36
(参考) 営業経費率 (※2)	56.7%	△1.3%		

※1 非資金利益 = 役務取引等利益 + 特定取引・その他業務利益 - 国債等債券関係損益

※2 営業経費率 = 営業経費 ÷ (連結粗利益 - 国債等債券関係損益)

2023年度中間決算のポイント

① 連結粗利益（除く国債等債券関係損益）

- 貸出金利息収入など本業部分の収益が着実に積み上がった結果、資金利益は増加
- 前年は為替変動により、お取引先の為替ヘッジニーズが高まったことを受け大幅に増加したデリバティブ収益が、当中間期は反動減
一方、デリバティブ以外のコンサルティング業務にかかる法人ソリューション収益は好調であり、非資金利益は堅調に推移

(億円)	'20/中間	'21/中間	'22/中間	'23/中間	前年同期比
〔銀行〕非資金利益	74	82	102	93	△ 9
法人ソリューション収益	14	16	37	28	△ 9
うち対顧客向けデリバティブ	5	5	22	8	△ 14

② 与信費用

- 原材料価格高騰の影響を受けたお取引先の業況悪化等を踏まえ、貸倒引当金を計上

③ 株式等関係損益

- 政策保有株式等の売却益の計上に加え、前年に計上した保有株式の評価損拡大による損失(株式等償却)が消失

④ 親会社株主に帰属する中間純利益

- 株式等関係損益の増加を主因として、前年同期比66億円の増益
- 通期の業績予想(275億円)に対する中間期の進捗率は60%

主なグループ会社の実績（銀行）

銀行単体

- ◆ 貸出金収支の増加に加え、シンジケートローン等の手数料収入が増加した一方で、外貨調達費用の増加による有価証券収支の悪化や、対顧向けデリバティブ収益の反動減により、コア業務純益は微減
- ◆ 株式等関係損益の増加を主因として、中間純利益は前年同期比65億円増益の166億円

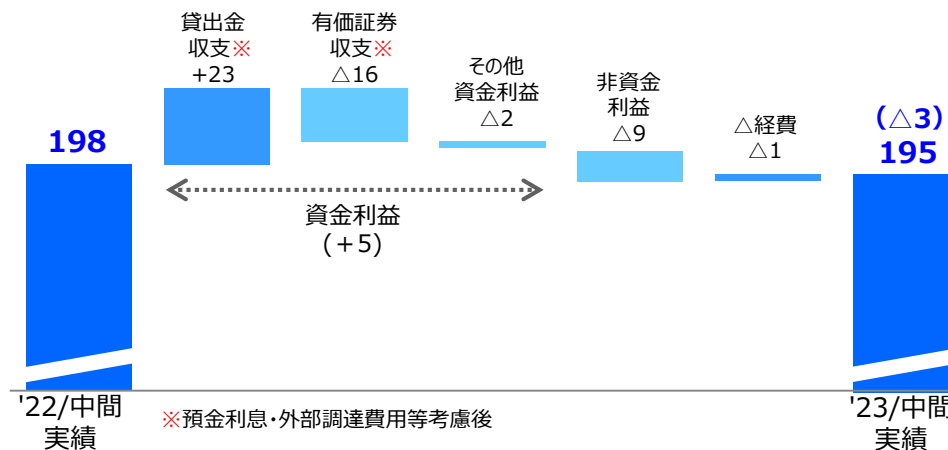
銀行

(億円)

	2023年度 中間期	前年 同期比	(増減率)
コア業務粗利益	457	△ 5	(△1.0%)
資金利益	364	5	
非資金利益	93	△ 9	
法人ソリューション	28	△ 9	
うち対顧向けデリバティブ	8	△ 14	
うちシンジケートローン・船舶関連	13	8	
アセットマネジメント	24	0	
その他（内国為替、外国為替等）	41	0	
経費（除く臨時処理分）（△）	262	△ 1	
コア業務純益	195	△ 3	(△1.8%)
コア業務純益（除く投信解約損益）	195	△ 3	(△1.8%)
国債等債券関係損益	△ 12	7	
実質業務純益	182	3	(2.0%)
与信費用（△）	40	36	
株式等関係損益	74	115	
その他臨時損益	16	9	(前年) 株式等償却(△)50
経常利益	232	92	(65.0%)
特別損益	△ 0	1	
法人税等合計（△）	64	27	
中間純利益	166	65	(65.0%)

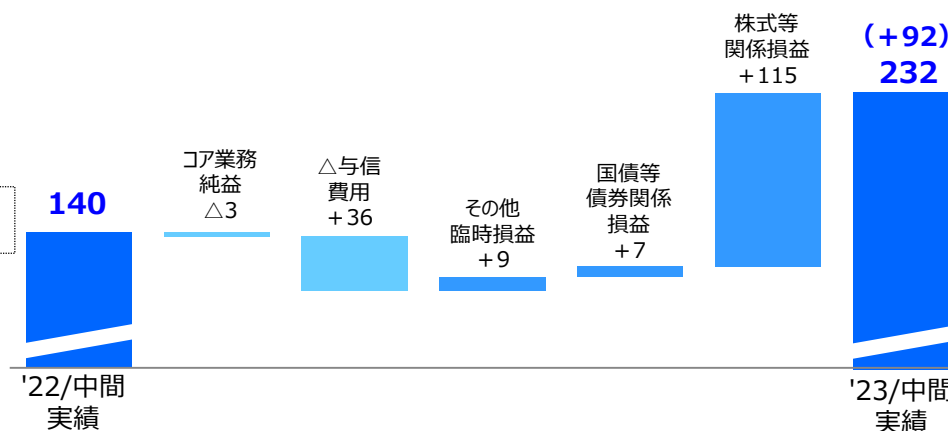
＜コア業務純益の増減要因＞

(億円)



＜経常利益の増減要因＞

(億円)



主なグループ会社の実績（銀行以外）

グループ各社

◆ 足元の業績は各社とも概ね順調に推移しており、グループ会社中間純利益は増益を確保

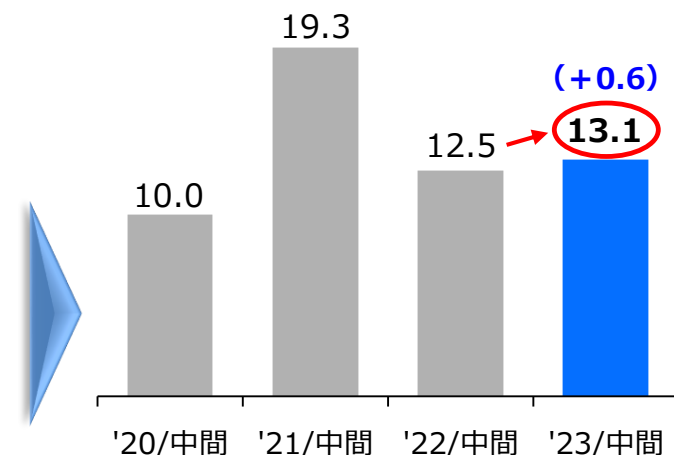
ひろぎん証券			ひろぎんリース			しまなみ債権回収		
(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比	(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比	(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	2,482	85	業務粗利益	1,214	64	業務粗利益	257	△ 114
経常利益	485	99	経常利益	572	△ 29	経常利益	△ 91	△ 248
中間純利益	324	91	中間純利益	391	0	中間純利益	△ 71	△ 179

ひろぎんヒューマンリソース			ひろぎんキャピタルパートナーズ			ひろぎんITソリューションズ		
(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比	(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比	(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	132	61	業務粗利益	71	3	業務粗利益	549	90
経常利益	16	50	経常利益	21	5	経常利益	126	68
中間純利益	9	34	中間純利益	14	4	中間純利益	83	45

ひろぎんエリアデザイン			ひろぎんクレジットサービス ※		
(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比	(百万円)	2023年度 中間期	前年 同期比
業務粗利益	89	29	業務粗利益	1,824	138
経常利益	△ 16	33	経常利益	858	74
中間純利益	△ 11	23	中間純利益	561	44

※ 2023年4月1日付で、ひろぎん保証はひろぎんカードサービスを吸収合併し、同日付で商号をひろぎんクレジットサービスに変更しております。
前年同期比はひろぎん保証とひろぎんカードサービスの合算の計数との比較であります。

グループ会社中間純利益
グループ会社中間純利益 = 銀行を除く連結子会社等の中間純利益に
出資比率を乗じた額の合計
(億円)



(参考)

HD単体中間純利益	64
(+) 銀行	166
(+) 銀行以外のグループ会社	13
(△) 子会社からの配当金の相殺等	78
HD連結中間純利益	166

(億円)

- ◆ 持株会社体制への移行から3年が経過する中、グループ各社の相互連携は順調に進んでおり、グループのあらゆる機能とアライアンスを活用したソリューションの提供を通じて、顧客軸・業務軸とも着実に拡大

グループ会社の主な取組み

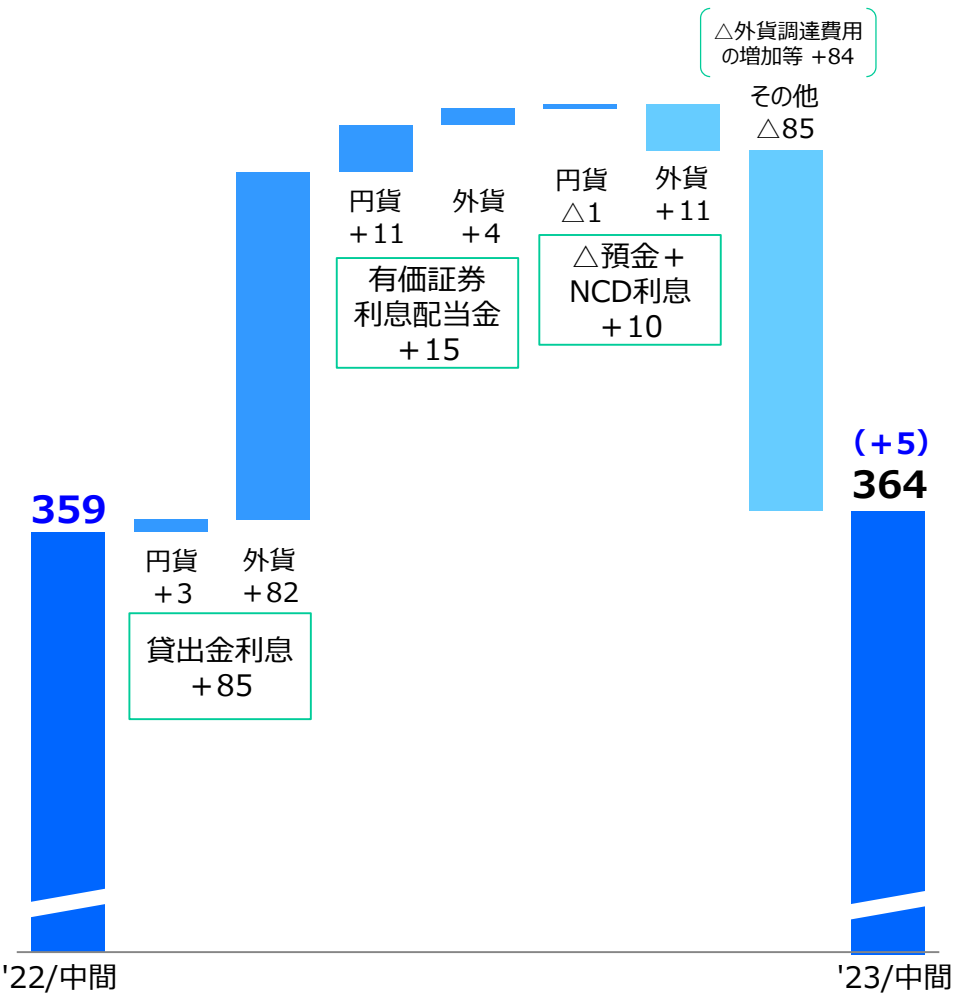
	金融・非金融ニーズ	ソリューションの主体	実績	【参考】 持株会社体制移行 ('20/10)後の実績
金融連結子会社	資産運用	ひろぎん証券	金融商品仲介 口座数 '23/9末 28,109口座 ('22/9末比 + 304)	'20/9末比 + 7,066口座
	設備投資・ リース活用	ひろぎんリース	取引先数 '23/9末 6,450先 ('22/9末比 + 88)	'20/9末比 + 292先
	資本増強 (事業承継・事業再生)	ひろぎん キャピタルパートナーズ	出資残高 (ファンド・プリンシパル投資合計) '23/9末 35億円 ('22/9末比 △1)	'20/9末比 + 34億円
	決済手段多様化	ひろぎん クレジットサービス	法人カード取扱高 '23/中間 76億円 ('22/中間比 + 9)	'20/中間比 + 27億円
非金融連結子会社	人材確保・ 人事制度構築	ひろぎん ヒューマンリソース (2021年4月新規設立)	顧問契約社数 '23/9末 93社 ('22/9末比 + 44)	'21/4月以降 + 93社
	ICT・業務効率化	ひろぎん ITソリューションズ (2021年1月子会社化)	案件成約件数 '23/中間 98件 ('22/中間比 + 19)	'21/1月以降 414件
	地域課題解決	ひろぎんエリアデザイン (2021年4月新規設立)	期中受注案件 '23/中間 26件 ('22/中間比 + 14)	'21/4月以降 67件

経営成績の推移（資金利益、非資金利益）

銀行単体

資金利益の増減要因

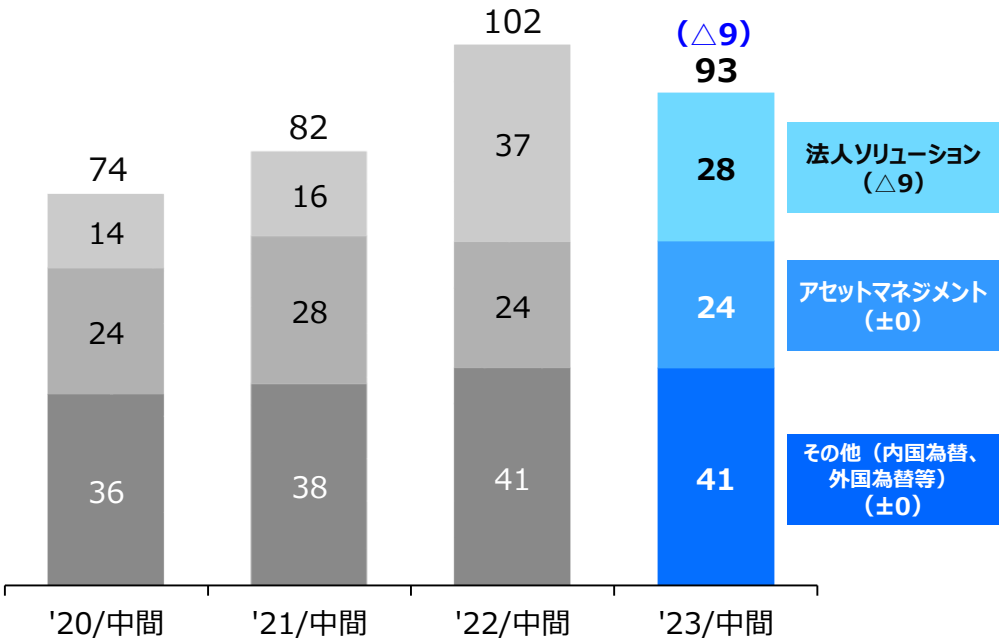
(億円)



非資金利益

非資金利益 = 役務取引等利益 + 特定取引利益 + その他業務利益（除く国債等債券関係損益）

(億円)



(参考) 法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益 (億円)

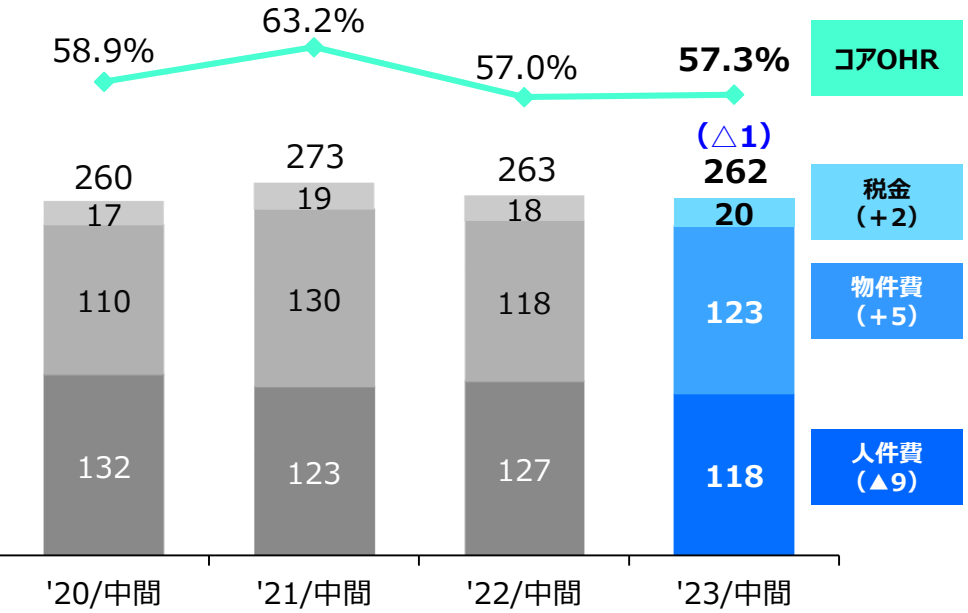
	'20/中間	'21/中間	'22/中間	'23/中間	前年同期比
法人ソリューション	14	16	37	28	△ 9
うち対顧客向けデリバティブ	5	5	22	8	△ 14
うちシブ・マーケット・船舶関連	5	6	5	13	8
アセットマネジメント	24	28	24	24	0
うち信託	2	3	3	3	0
エクイティビジネス	-	6	0	-	△ 0
合計	38	50	61	52	△ 9

経営成績の推移（経費、コア業務純益／中間純利益）

銀行単体

経費（除く臨時処理分）・コアOHR

コアOHR = $\frac{\text{経費}}{\text{コア業務粗利益}}$ (億円)

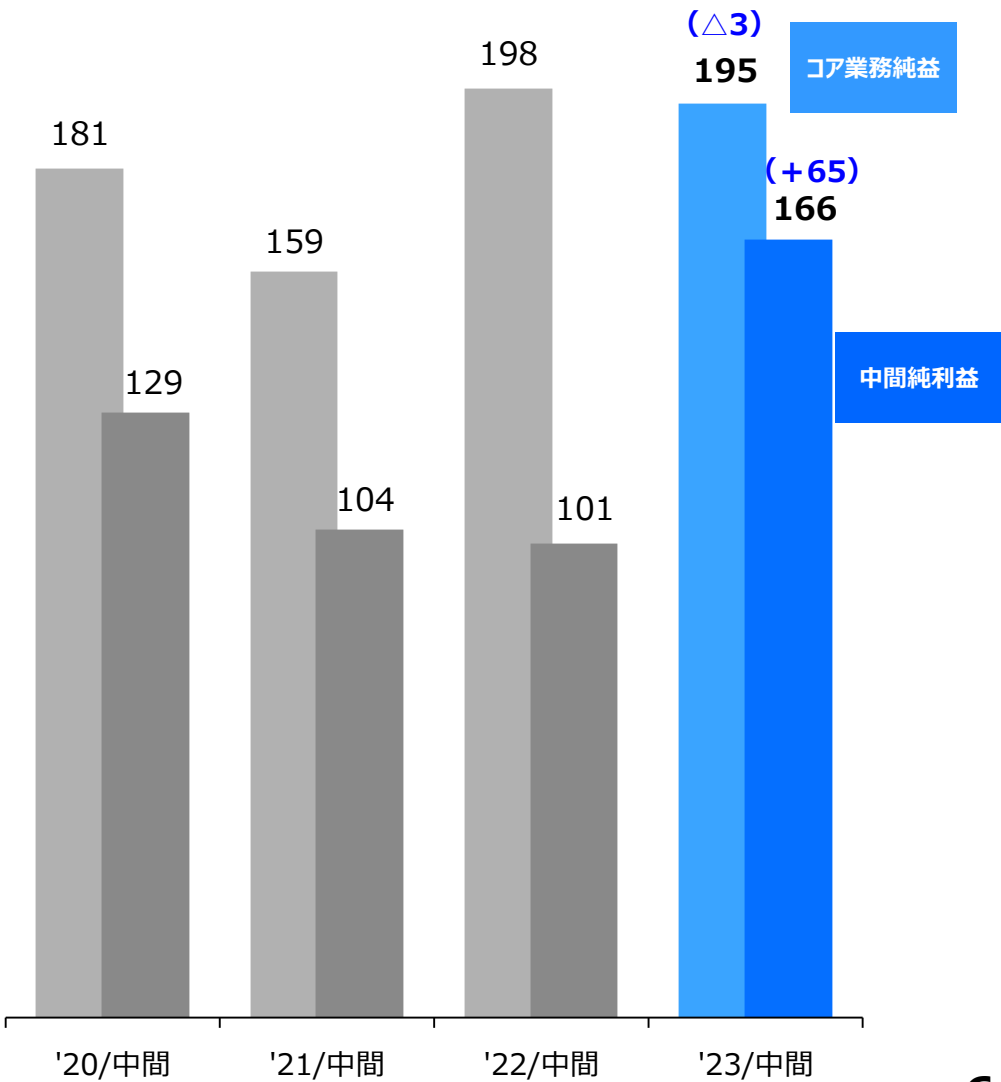


(参考) 経費の主な増減要因 (億円)

	前年 同期比	主な要因
人件費	△9	・退職給付費用△3 ・賞与(業績連動)△2 ・役員・従業員(出向者)に係るHD負担分の増加△1
物件費	+5	・収益増強施策(マーケティング、広告費用等)+2 ・HDに対する経営管理料+2(連結では相殺)
税金	+2	・外形標準課税+2
経費合計	△1	

コア業務純益／中間純利益

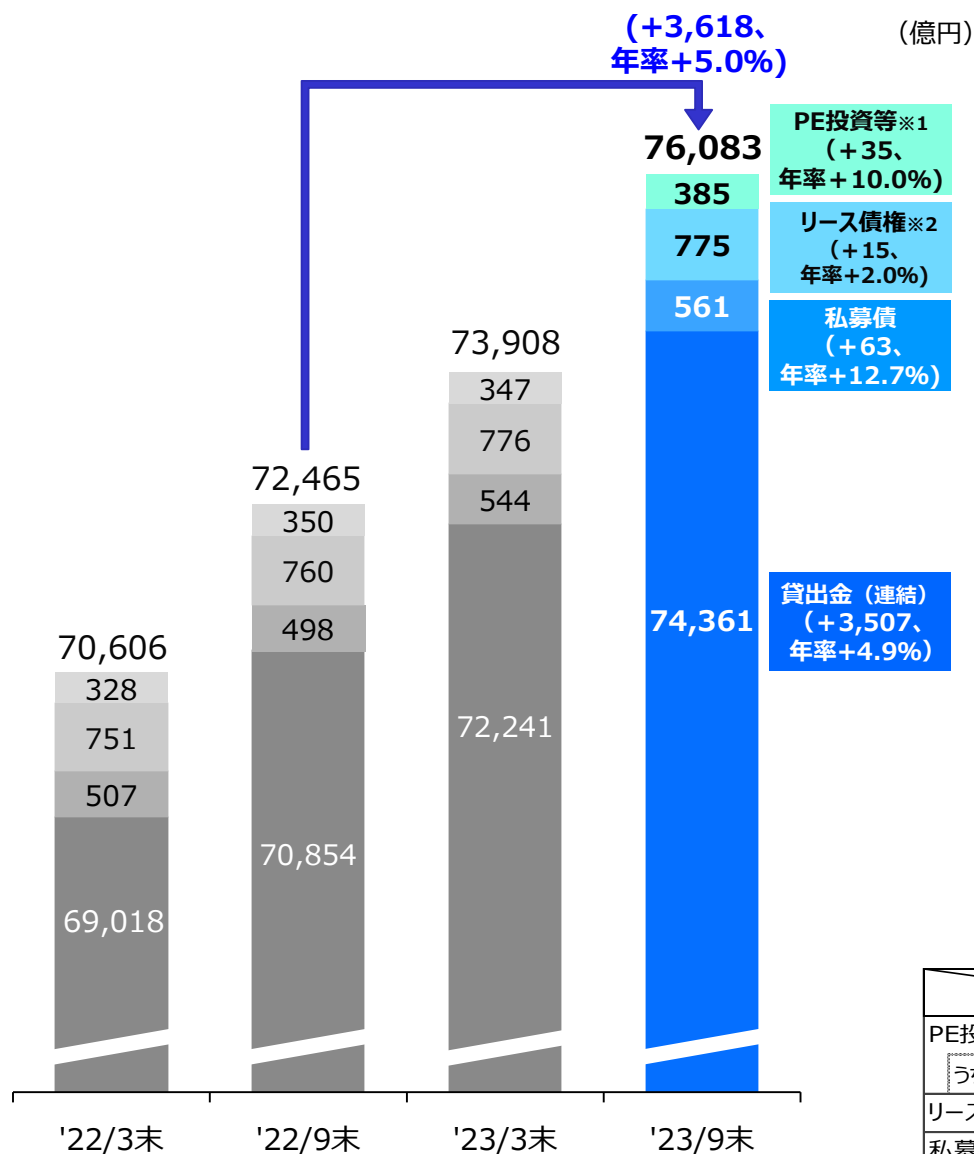
(億円)



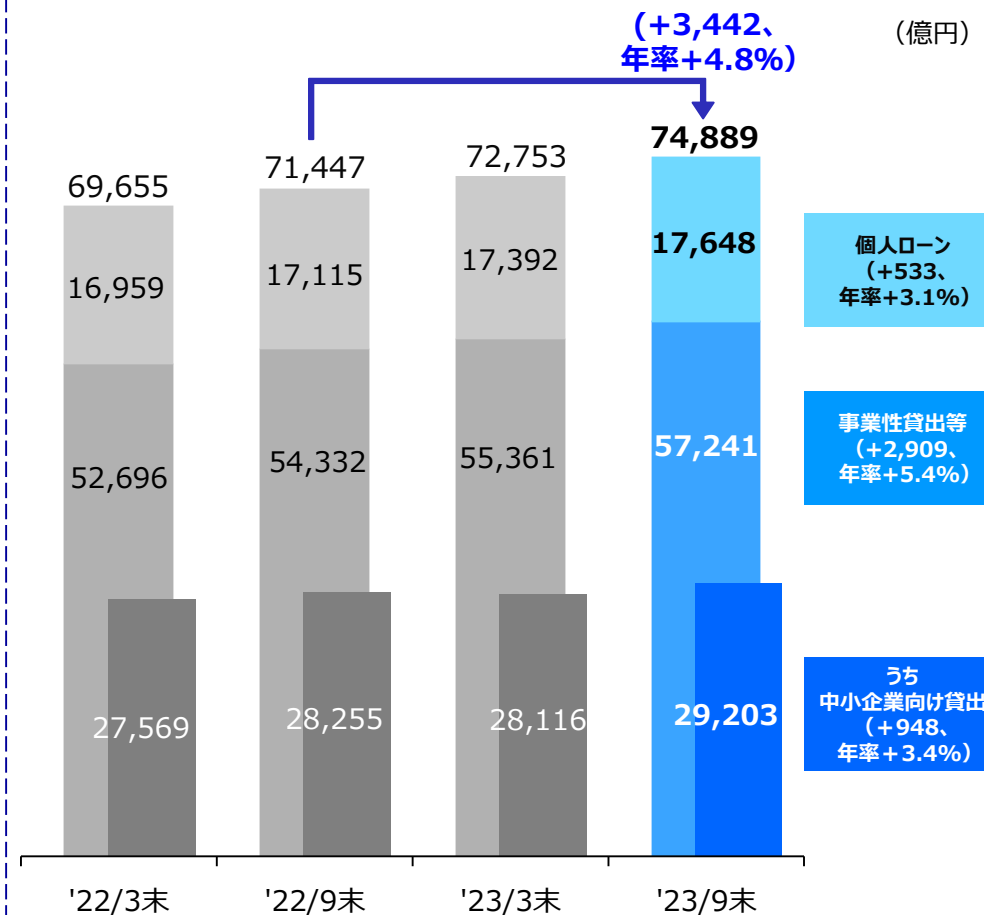
グループ総与信（貸出金＋私募債＋リース＋プライベートエクイティ投資等）

HD連結
銀行単体

【HD連結】グループ総与信



【銀行単体】貸出金残高



(億円)

	'22/3末	'22/9末	'23/3末	'23/9末	'22/9末比
PE投資(出資約束額)等 ※1	328	350	347	385	35
うち出資残高	160	179	159	169	△ 10
リース債権 ※2	751	760	776	775	15
私募債	507	498	544	561	63

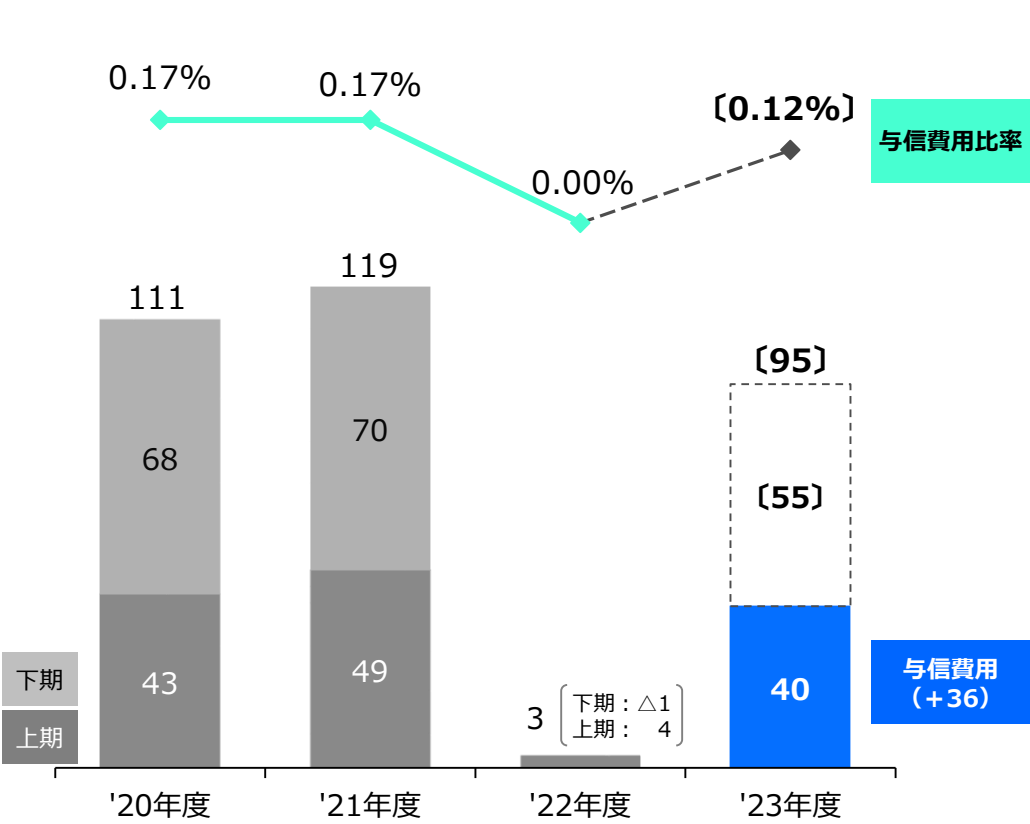
※1.PE投資等には、私募REIT出資を含んでおります。

※2.ひろぎんリースのリース債権等を計上しております。

与信費用・与信費用比率

与信費用比率 = $\frac{\text{与信費用}}{\text{貸出金残高}}$ (億円)

※ '23年度の〔 〕内の数字は計画値

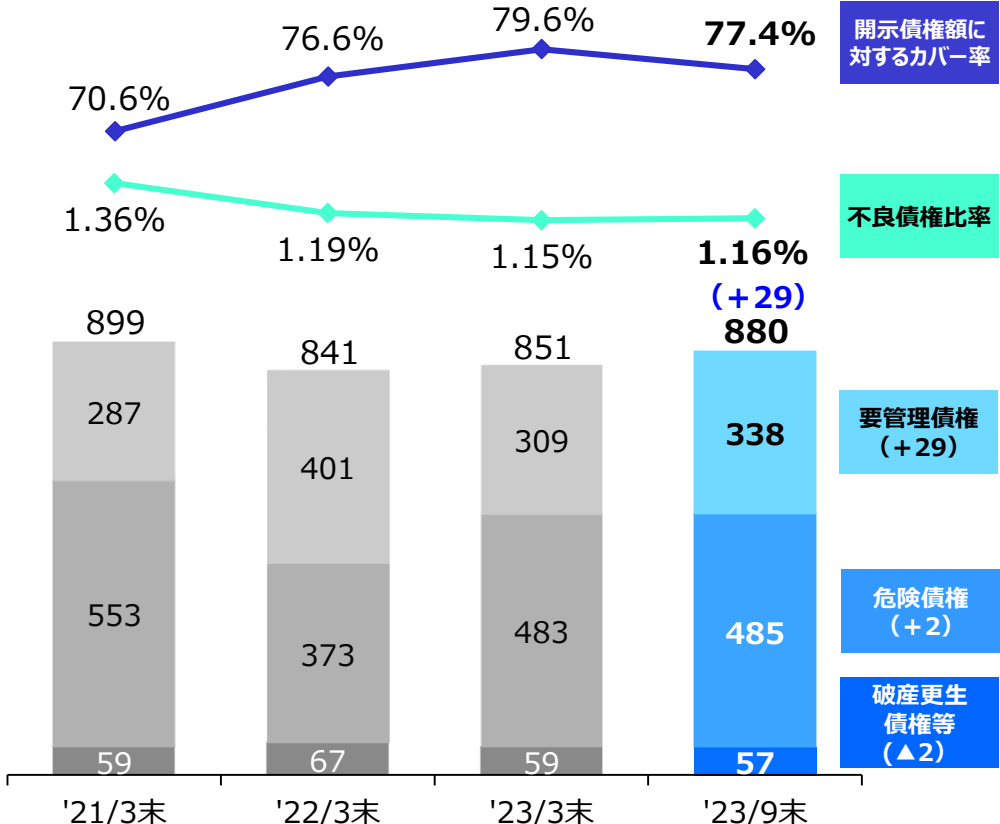


	'08年度	'09年度	'10年度	'11年度		'20年度	'21年度	'22年度	'23年度
与信費用	232	146	119	91	...	111	119	3	〔95〕
与信費用比率	0.53	0.33	0.27	0.20		0.17	0.17	0.00	〔0.12〕

金融再生法開示債権額・不良債権比率

不良債権比率 = $\frac{\text{金融再生法開示債権額}}{\text{総与信}}$ (億円)

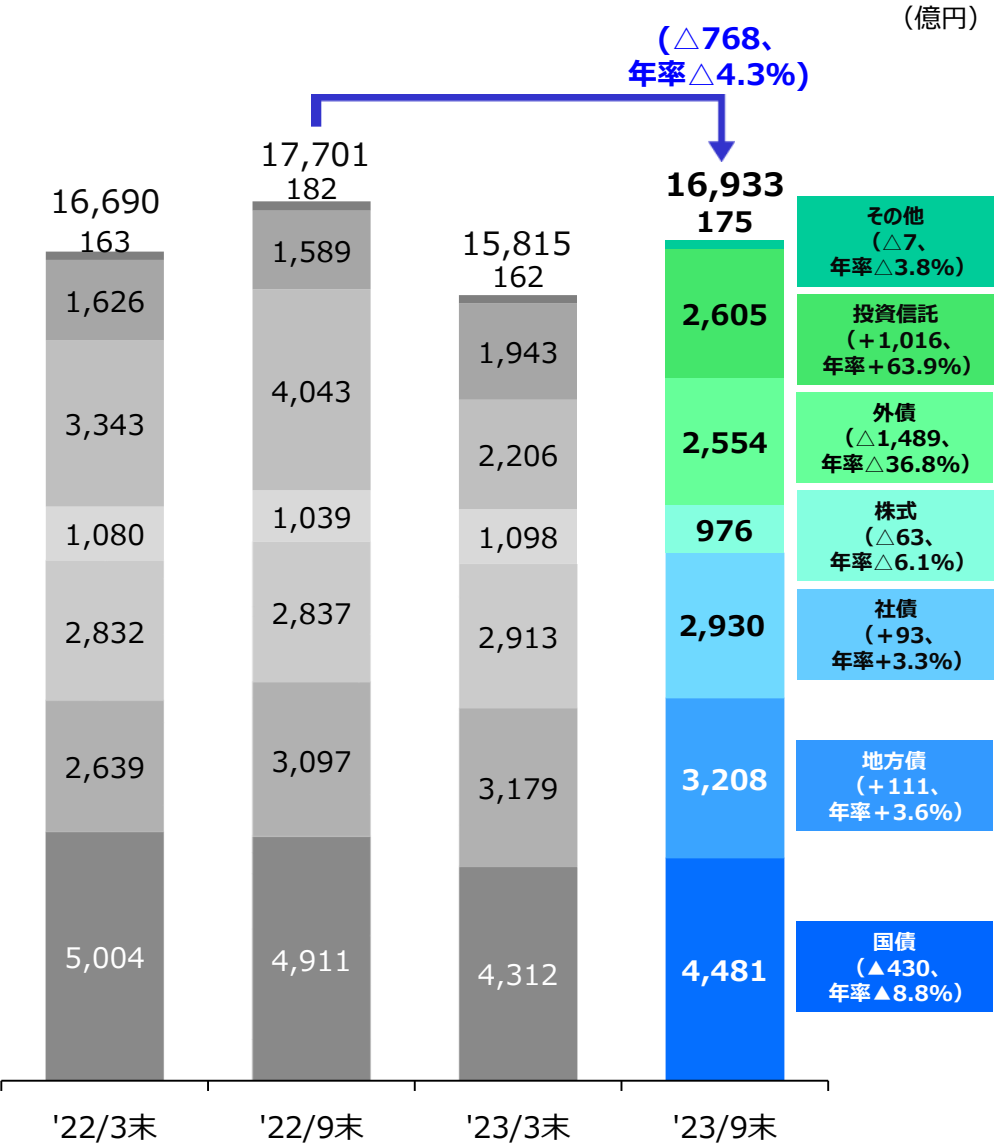
開示債権額に対するカバー率 = $\frac{\text{カバー額 (貸倒引当金 + 担保保証等による保全)}}{\text{金融再生法開示債権額}}$



	'09/3末	'10/3末	'11/3末	'12/3末		'21/3末	'22/3末	'23/3末	'23/9末
金融再生法開示債権額	1,284	1,119	1,158	1,052	...	899	841	851	880
不良債権比率	2.82	2.50	2.60	2.31		1.36	1.19	1.15	1.16

(注) 金融再生法開示債権額は、単位未満を四捨五入して表示しております。

有価証券残高



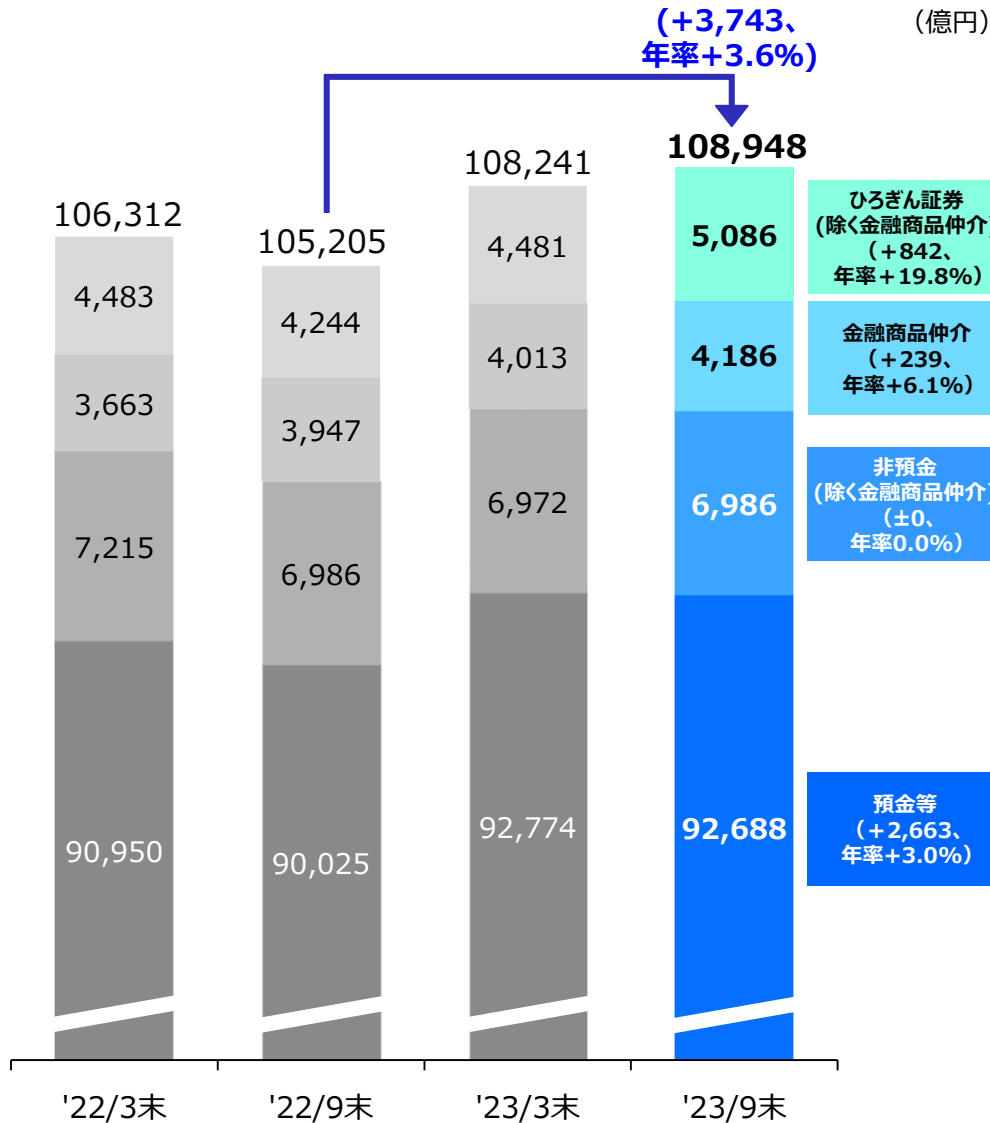
有価証券評価損益

(億円)

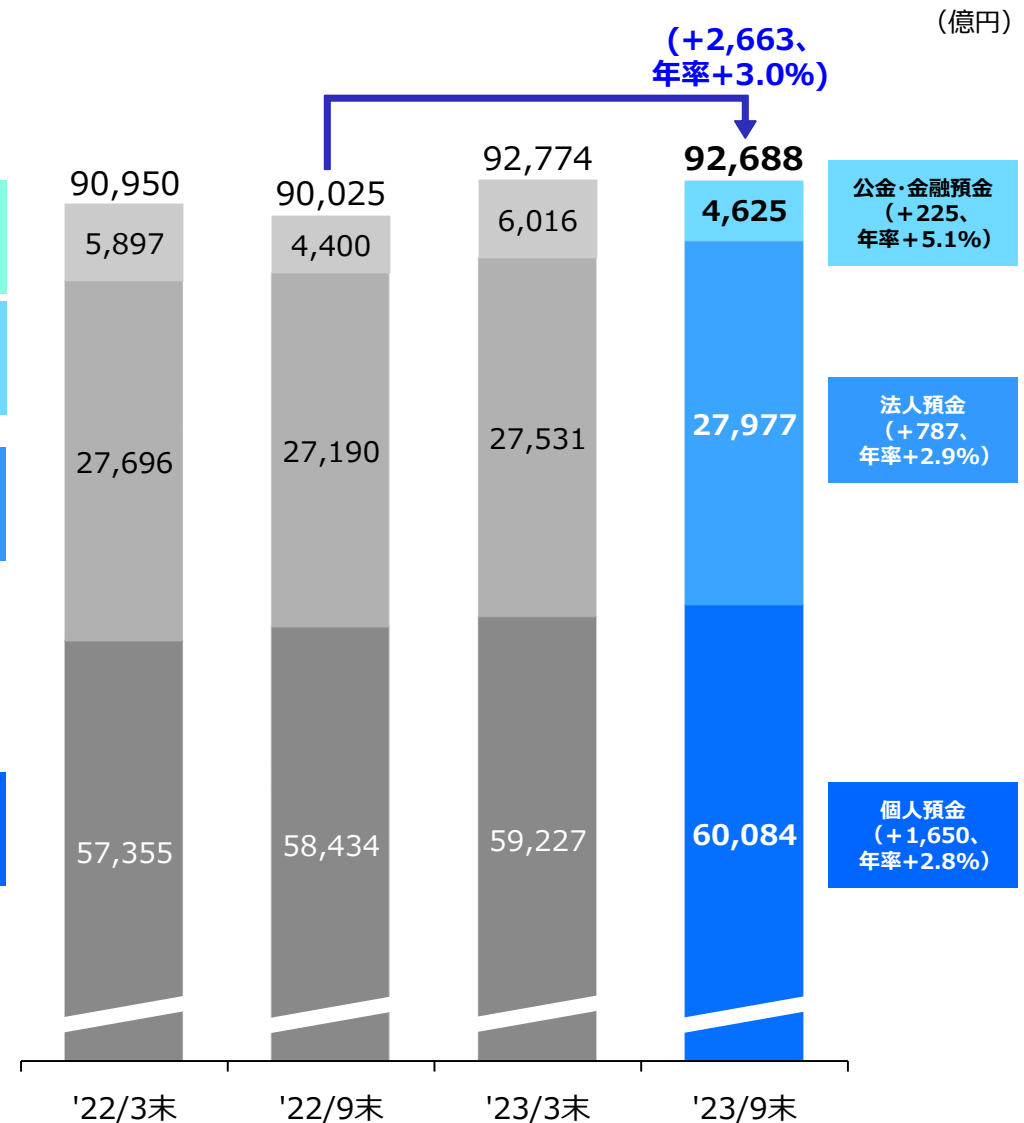
	'22/3末	'22/9末	'23/3末	'23/9末	'23/3末比
満期保有目的	-	-	0	△ 3	△ 3
債券	-	-	0	△ 3	△ 3
その他	-	-	-	-	-
其他有価証券	15	△ 504	△ 125	△ 240	△ 115
債券	△ 112	△ 204	△ 213	△ 367	△ 154
国債	△ 84	△ 148	△ 140	△ 231	△ 91
地方債	△ 17	△ 32	△ 43	△ 76	△ 33
社債	△ 10	△ 24	△ 30	△ 59	△ 29
株式	316	331	406	491	85
其他	△ 189	△ 631	△ 318	△ 364	△ 46
うち外債	△ 160	△ 528	△ 224	△ 310	△ 86
うち投資信託	△ 29	△ 103	△ 96	△ 56	40
合計	15	△ 504	△ 125	△ 244	△ 119

総預り資産（広島銀行+ひろぎん証券）、預金等（預金+譲渡性預金）

【HD連結】総預り資産(広島銀行+ひろぎん証券)



【銀行単体】預金等（預金+譲渡性預金）残高



(注) 1. ひろぎん証券の残高は、時価ベースです。
2. 「ひろぎんアプリ」を通じた金融商品仲介（楽天証券・SBI証券）は含んでおりません。

- ◆ 親会社株主に帰属する当期純利益は、前年比150億円増益の275億円（年初公表どおり）
- ◆ 「中期計画2020」最終年度の経営目標“親会社株主に帰属する当期純利益270億円超”の達成を見込む

2023年度の業績予想

（億円）

	中間期実績	2023年度業績予想	前年比	年初公表比
経常利益	239	395	208	-
親会社株主に帰属する当期純利益	166	275	150	-

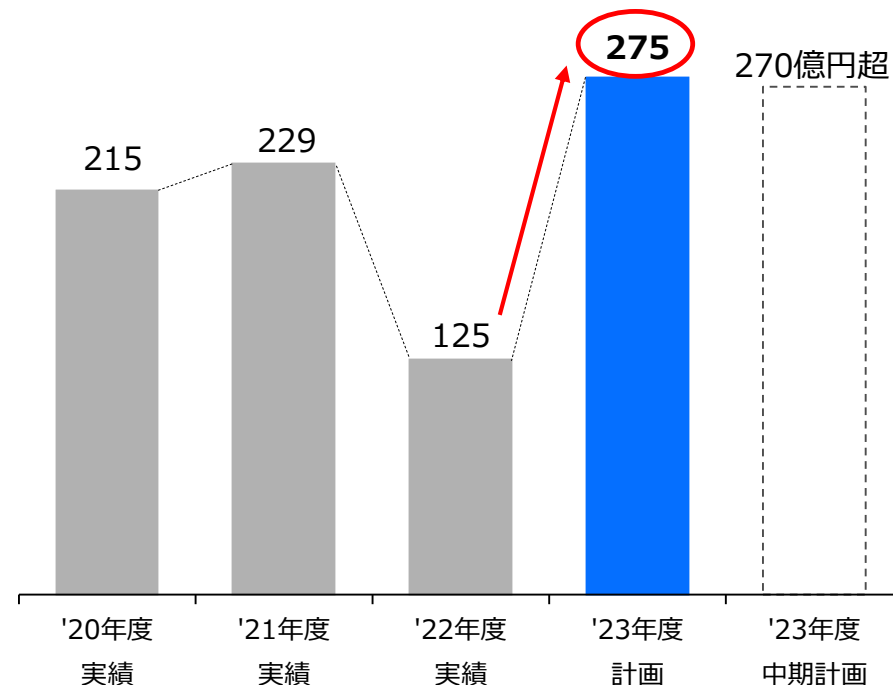
（参考）広島銀行の2023年度の個別業績予想

（億円）

	中間期実績	2023年度業績予想	前年比	年初公表比
資金利益	364	710	36	20
非資金利益	93	180	△ 11	15
コア業務粗利益	457	890	25	35
経費 (△)	262	525	2	-
コア業務純益	195	365	23	35
うち有価証券関係損益	61	70	260	10
うち与信費用 (△)	40	95	92	45
経常利益	232	365	201	-
当期純利益	166	260	145	-

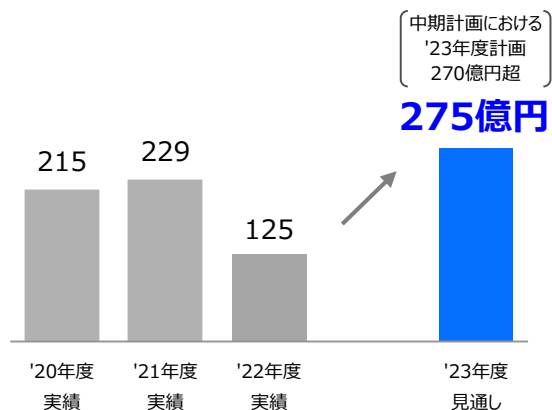
＜親会社株主に帰属する当期純利益＞

（億円）

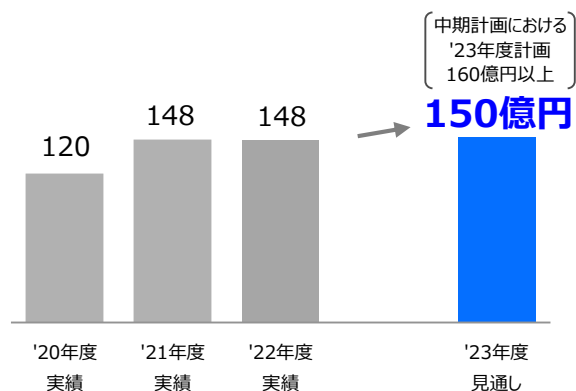


（2022年度）
 ・外国債券の処分に伴う売却損△184億円
 ・保有株式の評価損にかかる損失△53億円

親会社株主に帰属する当期純利益



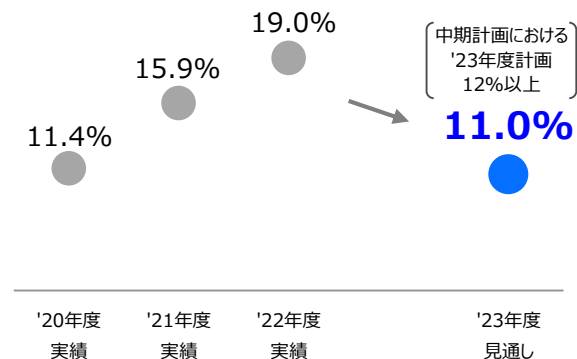
法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益※1およびグループ会社当期純利益※2の合計



※1 法人・個人のお客さまに対するコンサルティング業務に係る収益 = 銀行の法人ソリューション、アセットマネジメントおよびエクイティビジネスに係る収益の合計

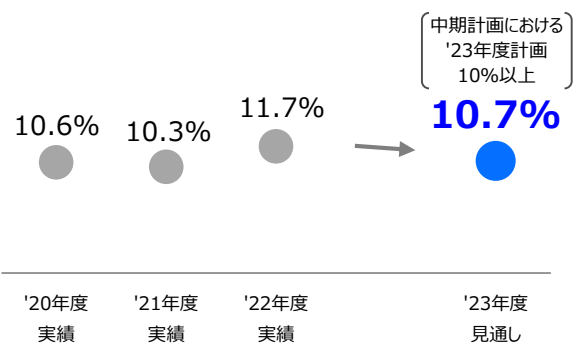
※2 グループ会社当期純利益 = 銀行を除く連結子会社等の当期純利益に出資比率を乗じた額の合計

グループ会社連結寄与度※3

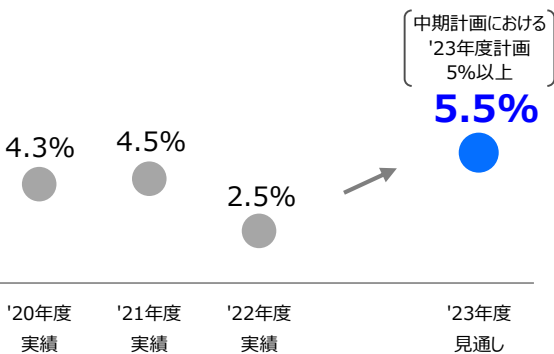


※3 グループ会社連結寄与度 = $\frac{\text{グループ会社当期純利益}(\text{※2})}{\text{親会社株主に帰属する当期純利益}}$

連結自己資本比率



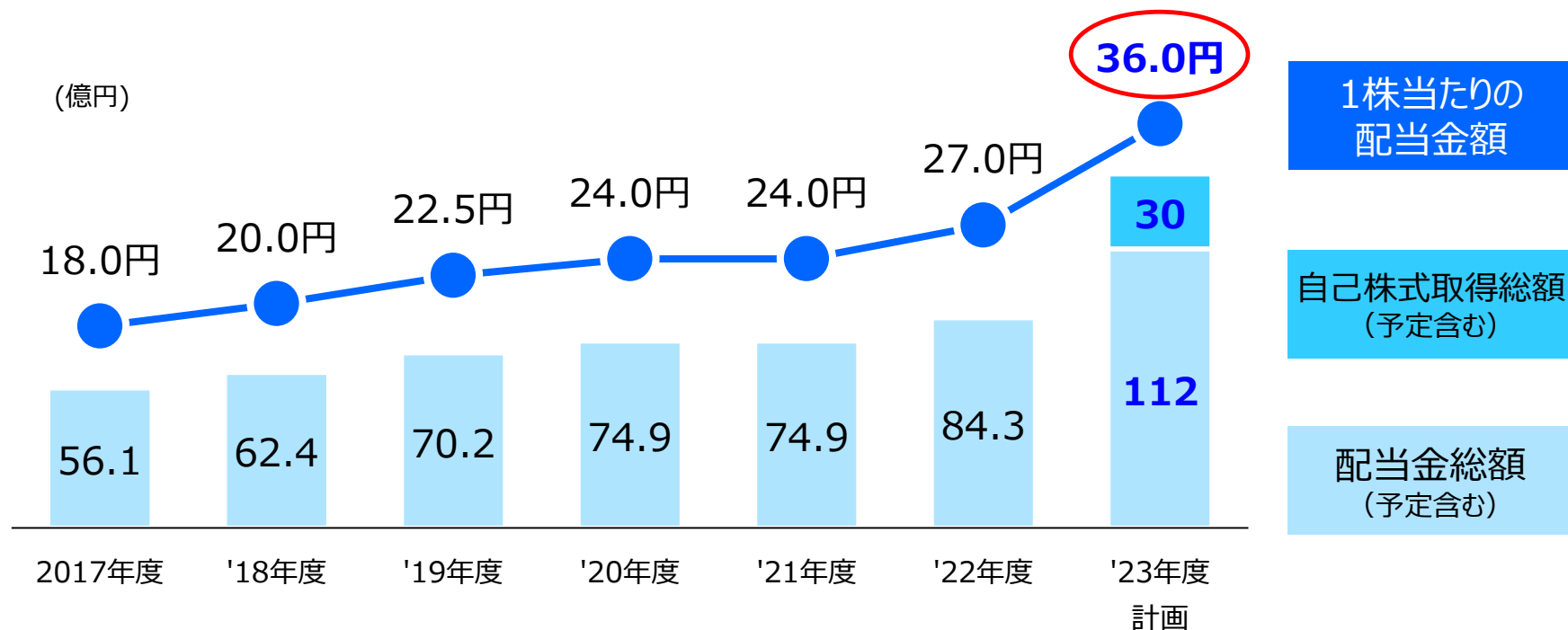
連結ROE



株主還元状況（配当予想）

HD連結

- ◆ 2023年度の1株当たり年間配当金（予想）は、年初公表とおり36.0円（中間配当は1株当たり18.0円実施）
- ◆ 着実な利益計上による増配の実現に加え、内部留保の充実を通じた機動的な自己株式の取得等、柔軟な株主還元を展開



配当性向	21.7%	24.3%	28.8%	34.6%	32.5%	67.1%	40.7%
総還元性向	21.7%	24.3%	28.8%	34.6%	32.5%	67.1%	51.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	258億円	255億円	242億円	215億円	229億円	125億円	275億円

(注) 1.2017年10月1日に株式併合（2株を1株に併合）を実施しております。2017年度の1株当たりの配当金額は、株式併合を勘案した金額を記載しております。
 2.2020年10月1日にひろぎんHDを設立したことを受け、2020年度は、広島銀行が実施した1株当たり12円（配当金総額3,748百万円）の中間配当と合計で記載しております。